



編集・発行

大阪府立

呼吸器・アレルギー医療センター

大阪府羽曳野市はびきの3丁目7-1

TEL:072-957-2121

FAX:072-958-3291

HP: <http://www.ra.opho.jp>

E-mail: kokyucen@ra.opho.jp



安全・安心な医療の現場へおもてなし

看護部長 ^{みやもと} 宮本 ありさ

師走を迎え、街頭には色鮮やかなシクラメンが、道行く人の目を楽しませてくれています。今年「かわらばん」で看護部の活動を毎月紹介しましたが、院内では色々なチームが活動を行い入院環境の改善を目指しています。その活動を一部ご紹介します。



9月の結核予防週間では、感染症病棟と事務局スタッフが藤井寺保健所と連携し、藤井寺駅前でのキャンペーンや勉強会の開催など啓発活動を行いました。(写真を見てください。結核薬の着ぐるみを着ています)、大阪府ではいまだに結核罹患率が全国トップです。大阪府の結核基幹病院の使命として、広く府民の方々に、結核という病気に関心と理解を



持っていただけるよう、様々な職種の方々と日々連携し活動しています。

10月は看護部と事務局のグループ活動として恒例となった、産休と育休中のスタッフが集まる「いくともピースの会」を開催しました。この会ではスライドによる病院の近況報告や、参加者が働いていた部署のメンバーからの動画メッセージを観るなど、育児中スタッフの復帰にむけて明るい話題を提供しています。



11月の医療安全週間では、各部署で考えた標語が院内に掲示されました。『ぬれた床 転ばぬ前に拭き取ろう』『誤配膳 アレルギー食

は命取り』『医療事故 ゼロを目指しておもてなし』といった切実な目標や、『びょうとうでははしらない しんどいこがいるので はしらない』『かんごしさん えがおのおくすり ありがとう』など、小児科に入院しているこどもから微笑ましい標語が寄せられました。

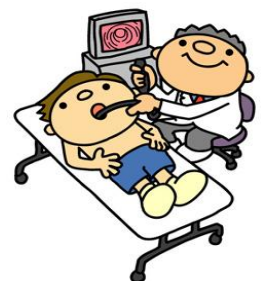
当院では他にも感染対策や栄養指導など多くのチーム活動を行っています。来年も活動にさらに磨きをかけ、個々の患者さんに個々の医療を提供できるよう、そして安全・安心な医療の現場へのおもてなしができるよう、努力を続けたいと思います。

最新の呼吸器内視鏡技術について

呼吸器内視鏡内科部長

^{おかもと} 岡本 ^{のりお} 紀雄

肺癌は高齢化の進行とともに増え続けている疾患です。気管支に沿って発生するため、診断には気管支鏡検査が行われてきました。しかし実際には、気管支は末梢に行くに従って複雑に分岐し、かつ個人個人でその分岐の仕方が大きく異なるので、肺癌の存在する部分に到達するのは意外に難しく、気管支鏡では診断に至らないケースも少なからず存在していました。



この問題を解決するため、最近多くの新しい技術が開発されてきています。その一つが仮想気管支ナビゲーションです。これはCTの画像データを基に、病変に到達するルートを3Dで再現してくれる装置です。実際の気管支内腔像とほぼ一致した画像を表示してくれ、カーナビのように気管支鏡を行うための道しるべになります。

また、実際に病変に到達しているかを正確に知るために有用なのが超音波プローブです。肺は大部分が空気で構成されており、正常肺に超音波を当てても反射されず何も信号は見えません。一方、癌などの病変部に超音波が当たると反射されるため、病変に到達していることを簡単に判断することができます。この部分を生検することで、病変部の組織を正確に採取することができます。当センターではこれら二つの技術をすでに導入しており、末梢型肺癌の診断に役立てています。

当センターではこのような最先端の内視鏡診断技術を利用して、少しでも診断率を向上させることができるよう取り組んでいます。

<看護部 誠意と温かみのある優しい看護を目指して⑫> 手術室

.....

シリーズ最後は手術室です。

「手術」という言葉を聞くと「痛そう、怖い、未知の世界で不安」などイメージされる方も多いと思います。また、手術室の前を通りかかられた方ならご存知かもしれませんが、清浄な空気を保つため入口は大きな扉が閉まっているので「ちょっと近づきにくいなあ、緊張する」といったイメージがあるかもしれません。

私たち手術室で働く看護師は、患者さんやご家族のそういった負のイメージを和らげるように、日々寄り添い看護を行っています。

当センターでの年間手術件数は約 1500 件で推移しており、呼吸器外科、消化器・乳腺外科、産婦人科、眼科、皮膚科の手術をしています。今年4月から乳腺疾患、甲状腺疾患の術式が増加しました。産婦人科でも子宮筋腫が内視鏡手術の対象になり、眼科においては 11 月から黄斑変性症に対して硝子体内注射が始まっています。

日々、変化している医療界において、ますます手術室看護師としての役割が期待されていると感じています。若手看護師は、ベテランナースから医師への器械出しの奥義を学び、ベテランナースを中心に最新の技術を学び、そして、医師や臨床工学技士との良好なチームワークを高めていることが、緊急手術でも対応できる安全・安心な手術の提供につながっていると考えています。

手術室では、患者さんとのコミュニケーションのとれる時間は短ですが、手術前の病棟へのお迎えの時から、患者さんにご家族の気持ちに向き合い、手術中や手術後にも優しいまなざしで寄り添える看護を目指したいと思います。



12月の教室案内

*カンガルー教室	●	12月4・11・18	日	午後1時～	第1会議室
*禁煙教室	●	12月 5	日	午後3時30分～	医療情報Jナ
*喘息教室	●	12月 19	日	午後2時～	第2会議室